

ふるさと観光マップ 長後めぐり 資料編その3 筆子塚コース (約5kmのコース)

永明寺



山号長福山と号す、臨濟宗(元鎌倉円覚寺末寺)本尊地藏菩薩、創立創立永和年中(1375~70)、開山清溪通徹。寛永7年(1630)領主で旗本の朝岡泰勝が再建。天明年間(1781~1789)火災にあい焼失、一時衰退したが、享和3年(1803)甲州龍野村円通寺の前住龍峰により堂宇修復が行われた。

明治6年、ここに郷学校として長明学校が開校された。

なお、開山の清溪禅師は中国へ留学し、帰朝後は北朝の光厳天皇の帝師とられた人で、その縁から当寺の寺紋には菊花を許されたといわれる。昭和48年に本堂・山門共に再建された。また、境内墓地には領主朝岡氏の墓碑がある。

旧道石碑



下土棚 2042 路傍 三叉路

道標 右星の谷道 左大山道 宿長後世話人 年銘不明

今は区画整理事業区域内になってしまいましたが、以前は三叉路になっていた場所に石碑があります。「左大山道」とあり、正面右側の面には「右星の谷道」と彫られています。

石仏の会 山本力氏資料より

八臂青面金剛像庚申供養塔 (はっぴしょうめんこんごうぞうこうしんくようとう)

下土棚 1662 路傍 市指定文化財

3猿像邪鬼 文化三寅年(1806)四月吉日 総高120センチメートル

笠塔婆型

江戸時代の万治・寛文年間(1658~1672)頃には仏教を背景に広く庶民に庚申信仰が伝わって、各地に庚申講がつくられ、庚申の夜に当番の家などに集まって宗教的儀式などを行い、飲食歓談する庚申待や講中による庚申供養塔の造立などが盛んになった。

仏教系の庚申信仰では青面金剛(しょうめんこんごう)が本尊になることが多く、その像は一面六臂像が普通であるが、この庚申供養塔三面八臂青面金剛像を陽刻している珍しい例である。

主像は足下に邪鬼を踏まえて塔身全面いっばいに彫られ、基礎前面には庚申供養塔にしばしばみられる三猿像が彫りこまれている。塔身右側面には文化三年(1806)の建立年銘があり、また、塔身左側面に「右ふじさ海道」、基壇前面に「左りほしのや道」と刻まれているところから、この庚申供養塔が道しるべもかねていたことがわかる。

藤沢市教育委員会資料より

白山神社



昭祭神伊那岐命・須佐之男命・八坂大神。境内社稲荷社(広田一族の)・天王者、下土棚地区の鎮守、例祭9月18日古くは当地広田氏宅の鬼門除けの守神であったが、寛文4年(1664)広田主水および氏子中により再建された及び9月の例祭には獅子舞が奉納されている。

【相風記】 下土棚村 〇白山社 鎮守なり、例祭九月十八日、村民持下同 △末社 稲荷、天王

◇地神塔(文字塔) 堅牢寺神塔 維時嘉永六年歳次(1853) 葵丑二月吉日 相州高座郡下土棚村

◇庚申塔 青面金剛像 3申像 日月衣 文致十亥年(1827)二月吉日 講中 右長後道 左ふし沢道(文字塔) 庚申塔 安政三年(1856)

善然寺



山号竜玉院西光院と号す。浄土宗(元増上寺末)、本尊阿彌陀如来、ほか十王像、地藏菩薩像、法然上人像などを祀る。開山は西光上人ということであるが、数度の火災に祭逢っているため古文書、過去帳等が残っていないためはっきりしない。元禄八年、仏元という僧が増上寺系統の各寺院を回り記述した資料によれば、当時の善然寺住職誠管上人は二十七世であると記載されていることから、仮に一代十五年とすると元禄八年から405年前の正徳3年頃創建されたと考えられる。龍玉山西光院と号していたが、天保の頃には澁谷山と号するようになり、その後、山門の玉を握っている龍の彫刻に因み、もとの龍玉山西光院に戻った。新編相模国風土記稿によると天保の頃には、境内に十三堂があったと記述がある

筆子塚(無縫塔) 歴代住職墓碑



昭善然寺墓地に筆子塚といわれる寺子屋師匠(住職)の墓がある。江戸時代の大半、善然寺住職が数代にわたり寺子屋教育を行い、近在の富農の子弟たちに「読み、書き、ソロバン」の教育を行ってきた。この子弟を俗に筆子といい、成人したのちに師匠の恩を偲んで建てた墓を、一般に「筆子塚」と呼ばれ、各地でその墓碑が見受けられる。ここでは約120年の長い間、数代の住職が寺子屋を継続していたという全国的にも稀であり、市の文化財指定史跡として保存されている。